

令和5年度第4回仙台市青葉区区民協働まちづくり事業評価委員会 議事要旨

日 時：令和5年3月7日（木）

13時30分～17時30分

場 所：青葉区役所7階会議室

出 席：青木委員長、小川副委員長、荒井委員、
齊藤委員、白石委員、丹治委員

※過半数の出席により委員会成立

1 開会

2 挨拶 仙台市青葉区区民協働まちづくり事業評価委員会委員長 青木 ユカリ

3 議事

(1) 議事録署名人選定 丹治委員

(2) 令和6年度まちづくり活動助成事業計画説明会

◇各団体プレゼンテーション

◇質疑応答意見等

① 一般社団法人～東北を明るくする～仙台ストリートピアノ協会

委員 まちに音楽が奏でられるという素晴らしい企画だと思う。実際に通りがかりで弾いた人は何人ぐらいいるのか、企画の仕組みを教えてください。

説明者 演奏者数と立ちどまって聞いた方の数は、別々にカウントはしているが、資料の数字は合算したものだ。EDENの前や駅東口のペDESTリアンデッキのような常に人が往来している場所については、足を止めた方の数が入っている。

委員 実際演奏する人はどれくらいか。

説明者 土日や祝日には、列ができるぐらいの人たちが演奏するが、平日の午前中やお昼の時間帯には、ポロポロいる感じだ。告知などの宣伝効果があり、あとはもともと知り合いの音楽家の方1組ぐらいに有償で演奏をお願いしている。動員数の数字で見ると立ちどまって見る人が80%ぐらいで、100人来れば、だいたい20人から30人ぐらいの演奏をする方がいる。

委員 音楽が途切れずに流れる感じか。

説明者 そうだ。途切れず演奏するのはほとんど一般の方だ。

委員 演奏する方のカウントは、個別にとっているのか。

説明者 弾いた人のカウンターと聞いた人のカウンターでとっている。演奏する人が聞くというような、相互行き来がかなりあるので、重複しないようにしている。

委員 鑑賞者から表現者になっていくという機会もあり、参加の状況を把握するにはカウントのところかと思ひ伺った。ピアノは、レンタルしているのか。

- 説明者 1台は私どもが持っているもので、もう1台は協力者が持っているものだ。もっとピアノが必要な場合にはレンタルしている。
- 委員 青葉の風テラスと青葉通りで予定しているが、イベントの主催者が別において、そこに共催というかたちでストリートピアノの部門を皆さんの団体で担うというイメージでよいか。
- 説明者 それぞれの場所を私たちが借りて、私たちがイベントをするというかたちだ。
- 委員 ストリートピアノ協会の定款には運搬や調律を行うと書いてあるが、ピアノ運送費用、調律代は団体に入るお金か、それとも外部に行くお金か。
- 説明者 定款には運送や調律も入っているが、今はその事業はしておらず、ピアノ運送は外部に、調律も調律師にお願いしているので、私どもの収入ではない。
- 委員 事業実施後の改善点を見出す評価について、どのような内容をお考えか。来場者の数は伺ったが、演奏された方やその場にいた方の声などの拾い方は、何かお考えか。
- 説明者 毎回イベントの際に、ピアノの近くに交流ノートを置いており、弾いた方、聞いた方からメッセージをいただいている。
- 委員 ストピを探そうスタンプラリーに7,000人ぐらい参加したとのことだが、これはカウンターでカウントしているのか。スタンプラリーに参加した方は、そこでピアノを聞いたかどうか分からないと思うが、そういった方も含めてのカウントか。また、青葉の風テラス以外の会場の費用は支払っていないのか。
- 説明者 スタンプラリーは長い期間実施したため、また3ヶ所同時にピアノを設置しており、大体平日の平均はこのぐらいだというのを反映したものと、休みの日にたくさん人がいるときには、その場でカウンターで数えたものを合算した。数字自体は足をとめてピアノを聞いた方の数を反映しているが、スタンプラリーのみに参加した方も実際に、そのような方は人数には反映していない。
- 委員 スタンプラリーのペーパーなどは、費用の中には入っていないのか。
- 説明者 仙台駅東まちづくり協議会と共催だったので、そちらに出してもらった。会場費について、藤崎とファーストタワーなどは、無償でお貸しいただくことになっている。

② 「お宮町」まちづくり協議会

- 委員 先進事例から学ぶ講座について、まいまい京都や長崎さるくはコースもたくさんありすばらしい活動をしているが、宮町のこの活動とのリンクをどこまで考えているのか。京都や長崎は、エリアもとても広いところをいろいろな構成でというところがあるが、宮町の場合は仙台市の中の宮町エリアを中心ということだと思うが、ボリューム感も含めて、地元の方が、ちょっと私たちにはとってしまう活動でもあるかと思った。
- 説明者 確かに宮町が同じようにできるかというとなかなか難しいだろうとは思っている。ただしっかりしたやり方を学ぶことによって、小さいエリアであってもまねることはできると思うので、しっかりまねつつ、他の商店街や仙台市全域の中で情報を提供して、各商店街や地域がやっていくところまでできれば、市全体が非常に活性化していくのではないかと

と思う。利益を出してどんどん大きくなるというよりは、次世代に技術を提供したり、新しい方々を招き入れて人材を発掘したりしていきたいと考えている。

委員 講師の謝礼と旅費を合わせると 37 万円ぐらいになるが、どうしてもこの方々に来てもらってこういう活動をしないと、今後に繋がっていかないのか。

説明者 それぞれ特徴があり、それぞれの方に聞いて学びたいということだ。予算の都合で難しければ、他にも聞きたい先生方がいるので調整をしたいとは思いますが、すごく大事な方々なので、可能な限りやっていきたい。

委員 遠方から費用かけて呼ぶだけの価値があるならばいいと思うが、宮町は宮町の良いところがたくさんあると思うので、地元なりのそういったところも地元の方々と話をして、作り上げていくほうがいいのではないかと思った。マップの中にいろいろな情報を落とし込んで、まち歩きツアーができるようにという計画だが、マップはデジタルだけか。それともペーパーにして商店街や来た方にも配るのか。

説明者 デジタルだけではなく紙もある程度用意をしていきたい。商店街に来る方は、紙ベースでないといけないこともあるし、目で通すことは大事だと思うので、これから会議で話し合いを進めていきたい。

委員 新聞チラシ折り込み料金が計上されているが、連合町内会の方々がメンバーに入っているのに、市政だよりなどをフェイストゥフェイスで配布しているような町内会のネットワークを活用するのではなくて、折り込みチラシとして費用をかけて配布するのはなぜか。

説明者 時間の問題などがあると思うが、連合町内会等と相談をしながら、できるだけ折り込み費用はかけないようなかたちでやりたい。

委員 住民の方は機会があれば、ぜひ自分も案内役、おもてなしをする側に回りたいという声があると思うが、実際にガイドを目指す方は 20 名ぐらいを想定しているのか、この 3 つの講座に参加する方延べで 20 名のイメージなのか、また、1 年経って実践者に近づくような方々をどれくらい生み出したいのか。

説明者 人数に関しては、歴史に興味ある方はどんどん来てもらい、ツアーガイドをしてみませんかと話を進め人を探していきたい。いずれ実働の中に入れてもらい、一緒にやっていく。まずは集められるだけ集めて、その中でいろいろな方に宮町の歴史も知ってもらおうことも必要かと思うし、興味を持つ方をふやしたいと思っている。

委員 この地域の方々、協議会に参画している方に絞り込むというよりは、宮町に何かしらの関係を持っていたり、歴史に関心のある方もこのガイドの対象であったり、運営する部分に参画する余白は持って構想しているということだ。

説明者 新たな方を入れていかないと、商店街や PTA の中で誰かいませんかと言っても、気持ちはあっても時間的な都合があり難しいという方も大勢いるし、興味ある人や前向きに参加できる人を探すひとつの手立てとして、今回探してみたいと思っている。何人かやってみたいという方も私自身聞いているので、少しとんがった方が出てくれたら面白いことになると考えている。

委員 ボランティア育成講座と運営体制構築講座に出る方は別なのか、どういう規模感でお考えか。

説明者 できるだけ多くの方に参加してもらい、いろいろな素材を欲しいとは思っている。
ツアーガイドをする人は最低でも10人くらいと考えている。

委員 市内いろいろなところでまち歩きのツアーをやり、実践を積み重ねている団体もいる。
榴ヶ岡や片平など市民センターを中心に活動している方々がたくさんいるので、
情報を共有してもらい、仙台市全体にこの活動が広がっていくとありがたいと思う。

③ 特定非営利活動法人 水・環境ネット東北

委員 ガイドのための冊子、解説資料の作成が5月とあるが、水・環境ネット東北で知識
の蓄積をしているから1か月なのか。実際にガイドをする人が解説資料を作ることに
関わる可能性はあるのか。作る人が教える、あるいは教える人が実際に作るみたいな
部分があると、参加という側面になってくるかと思う。

説明者 現地に詳しい方に依頼して作成を行っているが、その方々は自分たちのメモや頭の中
中に知識としてあるが、初めての人にパッと渡せる資料がない。講座1回ごとに1回
分の資料を用意して渡すというイメージで、最初に全部作るわけではない。各講座で
話をする方と資料を作る方は、基本的には同じだ。今年でき上がった資料を翌年度以
降少しずつ改定していきたい。

委員 ガイド用の解説書は、誰が中心になって作るのか。大学の先生や歴史に詳しい方か。

説明者 仙台・水の文化史研究会の方々や四ッ谷用水の案内人の方たちに監修や作成をして
いただく。講師の方に資料作成をお願いしており、参加者は基本的には受講者だ。

委員 四ッ谷用水界隈のまち歩きはもうすでに実践している方もいると思うが、入門講座
の募集定員15名は見込みとしてありそうか。

説明者 ガイドをやってみたいという人を個人的に聞いているのと、先日仙台市のフォーラ
ムのアンケートで、ガイドに興味あるかという質問を入れたところ、数名やってみた
いという方もいたので、うまくリーチできれば捕まえることもできると思う。また、
学びたいけどガイドまではどうかという人達も、最後に伝える楽しさを講座でやるこ
とで、やってみようという気持ちになってもらえたらと思う。

委員 1年後、ガイドとして頑張ってみようという方が何名ぐらいになっているといいと
思うか。

説明者 数名でもそういう気持ちになっていただけたらと思う。

委員 話を伝えていく側は思っているほど簡単ではないことがあるが、聞ける対象者がい
ることや、お互いに勉強し合える仲間が増えるというコミュニティも大事かと思う。

④ 特定非営利活動法人 グッドニュース・プロジェクト

委員 現スタッフの勉強会ということが中心になるかと思うが、スタッフをふやしていく
方向性を伺いたい。

説明者 大家からの依頼で5,6人のスタッフで、11件を週に2回のペースで見守りしている
が、都合が悪く代わり的人がいなくて、7,8人は必要だ。この見守りの活動

に参加した方には、活動費として500円の交通費と弁当を渡している。今は11人の訪問だけだが、もう少し必要がある地域があると思う。孤立のほかにごみ問題もあり、ごみ屋敷にならないように、2週間に一度家の掃除を手伝っている人もいる。他の大家にアプローチできるように、事業の説明を行い、ニーズに合わせられるようにスタッフの人数も確保できるようにしたい。

委員 生活困窮者の方の中から自分で動けるようになった方と一緒に生活困窮者の方をヘルプするという活動で、みんなで歌ったり交流したりするイベントを開催するということか。みやぎ生協からの助成金だが、生活困窮者の支援金のような助成金をもらうということか。

説明者 今後申請をする予定で、確実な助成金ではない。青葉区の助成金に該当する講師の謝金や印刷費を除いた金額を申請したいということだ。孤立を防いでスタッフ側に回ってもらうというところは、非常にレベルの高い目標であり、そういう方が出たことは私たちの成果の一つではあるが、必ずしもそれだけが目標ではない。

委員 信頼関係を作っていないと、生活に困窮していた方が周りの人を助けたいという思いになかなかないのではと思った。生活困窮者だけではなく、庭の草取りや電球交換など日常のこまごました手助けは、民生委員でも無料でやってくれるかと思うが、どうか。

説明者 私たちは困窮者支援の活動を行っており、炊き出しや脱ホームレスの交流会なども定期的に行っている。1人ではない、社会に戻れるチャンスがあるというメッセージを届けたいと思っている。うちのリーダーは民生委員なので、他の民生委員のアドバイスや協力ももらいながら頑張っている。

委員 きっかけとなる大家との関係は、地域が近いところなのか、あるいは大家のネットワークで割と点在しているエリアなのか。

説明者 今繋いでいる大家は利益だけを指す方ではなく、必要なニーズがある人たちの支援ができたという思いがあるので、こういう活動をもう少ししっかりできたら、ネットワークを通して他の大家にアピールできると考えている。

委員 今は1物件のエリアの方の対応か。

説明者 大家は3人おり、1人の大家が6アパートぐらいのオーナーで、残りが2人の大家だ。私たちが活動の中で公園に行ったり路上生活の方たちの弁当配りの活動に行ったりした時に知り合った。

委員 グッドニュース・プロジェクトは、音楽などの場を通じながらの活動が目的かと思うが、東日本大震災の支援をきっかけに、被災地域から引っ越してくる方の生活に寄り添いながら、今の見守り事業につながっていくような対応が土台にあり、大家からの相談がきっかけでこういった展開になったということだ。個々人との関係があるからこそ、ほっておけないという部分を皆さんなりに学びを重ねながら、あるいは福祉領域の専門職との繋がりや、個人の活動の後押しをしていくということだと思うが、今後この事業を、そこを主と活動されてる皆さんと協力、あるいはバトンタッチするようなことも考えられると思うが、どうお考えか。

説明者 先輩たちの専門性のある活動はすでにあるわけだが、現状は足りない部分も確かに

あると思うし、歌声やりましようと言ってきてくれる方は、もうすでに心の回復はしている方で、本当に孤立している心の方は来てくれないということが難しい。サロンまで来てくれるという心の回復を、すごく重視している。

委員 それにもこたえようというマインドをお持ちかと思うが、抱え込むと大変な活動かと思うので、いろいろなところ連携協力、役割をわけていく方法もあるかと思う。

委員 勉強会広報チラシ 1,000 部、歌声交流会 300 部とあるが、勉強会や歌声交流会の対象やチラシの活用の仕方を教えていただきたい。

説明者 勉強会の方の配布先は見守られる側の皆さんとこれからそういう体験をしてくれるであろう、福祉的なことに関心のある皆さんだ。NPO プラザやサポセン、あとは東北福祉大のボランティアの皆さんからも募集をして活動を PR したいと思っている。交流会は、今関わっている見守りされる側、する側と、その大家、地域の違う大家たちのネットワーク、勉強会の講師を依頼した法人の皆さんたちにも配りたい。アパートの周りの自治会の役員の皆さん、民生委員の皆さんたちを通して、配布をしていきたいと思っている。

委員 こういう活動を PR する場は少なく、チラシの効用はあると思うので、皆さんの活動を伝えるという意味ではとても大事かと思う。

⑤ みやぎに人形劇場をつくる会

委員 子供の施設では人形劇の需要が高いが、やっている方が少ない。継続して実施するのは繋がりが大事なのと、ずっと関わり続けるということが普通のサークルレベルだと難しいのではないかと感じている。しっかりとお金をかけて継続ができるような関係性をつくるモデルになると、素晴らしいと思った。今後もずっと同じものを上演していくのか。また、上演する地域や集める皆さんは、いろいろなところからを想定しているのか、それとも青葉区内での現在の活動の周辺で考えているのか。

説明者 層や地域は限定していない。青葉区北山にある木のおもちゃと絵本の横田屋がみやぎ人形劇の会の中心でやっており、そこでやらせてもらっているが、お呼びいただければどの地域でもやれるようにしていきたい。人形劇の作品は、既存の物語をベースにというところではなく、その人が考えたものという感じだ。人形劇のよさは、自由な発想で即興劇的なところもある。新しい発想、その人が独自に考えたものを人形劇でやりたいという思いを支えている感じだ。

委員 ワークショップでは、参加者が人形劇作りから演技まで全部やって、それを団員がコーディネートするということだ。

委員 きっかけの話を伺いたい、みやぎ人形劇の会がすでにあって、皆さんが 2019 年に宮城に人形劇場を作る会として立ち上げたということか。皆さんは人形劇の会にも関わっていたのか。

説明者 かかわっており、受け付けの手伝いなどを行った。

委員 そこから人形劇場を作る会を立ち上げた理由は何か。

説明者 みやぎ人形劇の会は古くからある既存の人形劇をみんなに親んでもらいたいとい

うことで、上演をしたり、もともと作られた人形を使ってワークショップをしたりしている。私たちが立ち上げた理由は、もう少し自由な発想で、それこそ人形を用いないというような、本当に新しい人形劇に力を入れているものだ。あとは、参加した人が継続して、試しにやる稽古場みたいなところを提供していければいいと思った。仙台には子供のための劇場がないが、最初から上物を作るのを目的にしても進まないだろうと、地道に子供たちや地域の人たちにそういう体験できる機会を作って理解を求めていくところからスタートした。

委員 ハード的なものを目指して作るというよりは、創作意欲のある皆さんが集まってできる場を作るというイメージでよろしいか。2022年度は6回程活動していたが、運営の部分の財源はなにか。

説明者 私たちはお手伝いをしていくかたちだったので、みやぎ人形劇の会が助成金等を別で申請したものが財源だ。

委員 そこで関わり方の役割分担をして、皆さん方は創作のサポート活動をしたということだ。

委員 記録映像はどのように活用するのか。

説明者 人形劇はやはりその場に来て見ていただかないことにはというところで、何とか臨場感を伝えられないかと、映像として記録を残し編集して宣伝のようなものに使うのが、一番効果があるのではないかと考えた。

委員 記録映像作成は外部に委託するのか、自分たちで製作するのか。

説明者 自分たちで記録映像を撮り編集をする。

委員 フェスティバルの総合演出謝礼は、みやぎ人形劇の会にお支払いするのか。

説明者 予算を本当にもらえるかというところにもよるが、プロの人形劇をやっている方をお願いをしようと考えていた。

(3) 令和6年度まちづくり活動助成申込事業の評価及び選考

① 特定非営利活動 作並・新川地区活性化連絡協議会

(ア) 協議結果：助成事業として採択する。

(イ) 評価委員からの意見

- ・助成後の収益事業計画や地域への貢献度も高いと感じた。地域の活力を取り戻すという趣旨がよく分かった。
- ・ホームページの改修を考えているところは大事と考える。地域内で完結するのではなく、広く伝える必要は大いにある。

(ウ) 助成額について

- ・助成額を300,000円とすることが妥当である。

② 一般社団法人 芭蕉の辻まちづくりの会

(ア) 協議結果：助成事業として採択する。

(イ) 評価委員からの意見

- ・活動自体が継続し、認知度を上げていくための活動を多く取り入れており、今後の活動が活発化するのではないかと思った。
 - ・連携先をうまく活用することで、予算的にいろいろと削減できるように思った。
- (ウ) 助成額について
- ・助成額を 300,000 円とすることが妥当である。

③ 関山街道フォーラム協議会

- (ア) 協議結果：助成事業として採択する。
- (イ) 評価委員からの意見
- ・作並地区の課題を、様々な団体と協力して解決していこうというポリシーを、今後も大事にしてもらいたい
 - ・いろいろと取り組んでいる分、広報が肝と考えられるため、あらゆる可能な方法を試してもらいたい。
- (ウ) 助成額について
- ・助成額を 150,000 円とすることが妥当である。

④ 一般財団法人 仙台 YWCA

- (ア) 協議結果：助成事業として採択する。
- (イ) 評価委員からの意見
- ・親子連れが多くいる地域において、子育て家庭向けに事業を実施することがすばらしいと思った。
 - ・チラシ以外の広報にも、力を入れていけると更に良いと思う。SNS の活用は若いお母さん方には伝わりやすいと考える。
- (ウ) 助成額について
- ・助成額を 200,000 円とすることが妥当である。

⑤ セカハピ団 仙台青葉本部

- (ア) 協議結果：助成事業として採択する。
- (イ) 評価委員からの意見
- ・コロナ禍を経て親子向けのコンサートを実施とのことで、子育て支援活動としても意味あることだと思う。
 - ・賛同するお母さんを取り込むことは大事だが、一工夫していかないと、コンサートを聴いておわりになってしまうので考えどころかと思う。
- (ウ) 助成額について
- ・助成額を 60,000 円とすることが妥当である。

⑥ せんだい 21 アンデパンダン展実行委員会

- (ア) 協議結果：助成事業として採択する。
- (イ) 評価委員からの意見

- ・ 芸術家たちの居場所や発表の場として定着してきた展示会の意義を感じた。
 - ・ 自己資金を得るために、オリジナルグッズの販売にぜひ力を入れてほしい。
- (ウ) 助成額について
- ・ 助成額を 250,000 円とすることが妥当である。
- ⑦ 一般社団法人 Granny Rideto
- (ア) 協議結果：助成事業として採択する。
- (イ) 評価委員からの意見
- ・ ラジオを通じての地域活性化や新しい魅力の発信等、視点が面白く期待できると思う。
 - ・ 新しい力と従来の方をつなぐコンセプトは、他の地域の手本になるのではと期待する。
- (ウ) 助成額について
- ・ 助成額を 350,000 円とすることが妥当である。
- ⑧ 仙台・杜の都のクラフトフェア実行委員会
- (ア) 協議結果：助成事業として採択する。
- (イ) 評価委員からの意見
- ・ 商店街との連携をより強化することで、広報も体制も中身も深まるように考える。
 - ・ クラフトフェアと新規事業がリンクすることが必須と考える。
- (ウ) 助成額について
- ・ 助成額を 400,000 円とすることが妥当である。
- ⑨ 台原地区の防災を考える会
- (ア) 協議結果：助成事業として採択する。
- (イ) 評価委員からの意見
- ・ 今後も継続できるよう、企画内容も少しずつ工夫が必要だと思った。
 - ・ 事業の規模とスタッフの数のバランスが取れていないと思うので、ボランティアの募集など参画する人を増やすと良いと思う。
- (ウ) 助成額について
- ・ 助成額を 60,000 円とすることが妥当である。
- ⑩ 一般社団法人～東北を明るくする～仙台ストリートピアノ協会
- (ア) 協議結果：助成事業として採択する。
- (イ) 評価委員からの意見
- ・ 街に音楽が流れ、ピアノの演奏をする人、聞く人が集いながら楽しめるイベントとしてにぎわいが期待できると思う。
 - ・ もう少し実施期間があることで、より「日常」となっていくのではと考える。
- (ウ) 助成額について

- ・助成額を 270,000 円とすることが妥当である。

⑪ 「お宮町」まちづくり協議会

(ア) 協議結果：助成事業として採択する。

(イ) 評価委員からの意見

- ・まち歩きや地域紹介にとどまらず、町内の歴史のアーカイブ作りなど多岐にわたる事業や発展が期待される。
- ・段階をおって計画されており、この通り進むことで姿が見えてくると考えるが、講師の呼び方について、地元ももっといかしていただきたい。

(ウ) 助成額について

- ・助成額を 220,000 円とすることが妥当である。

⑫ 特定非営利活動法人 水・環境ネット東北

(ア) 協議結果：助成事業として採択する。

(イ) 評価委員からの意見

- ・人材を育成し、後世につなげることで、仙台の大切な遺産をつなげていくことができると期待する。
- ・ガイドができる人材の希望数がどれくらいかで、事業が左右されると感じた。

(ウ) 助成額について

- ・助成額を 140,000 円とすることが妥当である。

⑬ 特定非営利活動法人 グッドニュース・プロジェクト

(ア) 協議結果：助成事業として採択する。

(イ) 評価委員からの意見

- ・社会支援の狭に落ちている層の生活困窮者への支援という事業内容、目的がとても市民活動としても意味あると感じた。
- ・勉強会の内容はとても大事かと思うが、もう少し具体的に組み立てておいた方がよいかと考える。

(ウ) 助成額について

- ・助成額を 70,000 円とすることが妥当である。

⑭ みやぎに人形劇場をつくる会

(ア) 協議結果：助成事業として採択する。

(イ) 評価委員からの意見

- ・地域で集まり、子ども向けの人形劇を上演することで、多世代の方々が出会い、作りものをしながらつながる活動は、貴重な場となることが期待される。
- ・上演場所について、もう少し広げていくことでより将来性が高まるように思う。

(ウ) 助成額について

- ・助成額を 230,000 円とすることが妥当である。

(3) その他

4 閉会

以上の内容について、相違ないことを認めます。

署 名 人 _____ 印

議長（委員長） _____ 印